

経済学者として、メディアのコメンテーターとして活躍している山口さんが、全国各地の中小企業を支援していると、経営者の仲間から聞いた。その活動の名称「スモールサン」(小さな太陽)は、中小企業を表すという。激動の時代において、中小企業が生き残っていくために経営者は何をすべきか、たずねた。



スモールサン 主宰 / 立教大学名誉教授

やまくち

よしゆき

山口 義行さん

1951年、名古屋市生まれ。立教大学名誉教授。外務省参与として中小企業の海外展開、関東経済産業局「新連携支援」政策の事業評価委員長として中小企業連携支援に携わる。経済学者として研究活動を続けながら、「中小企業サポートネットワーク」(スモールサン)の主宰として、中小企業への情報提供、経営者が主体的に参加する勉強会の開催など中小企業支援活動を展開。テレビやラジオ番組のコメンテーターとしても活躍中。著書に『社長の経済学』(中経出版)、『山口義行の“ホント”の経済』(スモールサン出版)、編著に『終わりなき世界金融危機』(岩波書店)など多数。

[写真] 安岡 嘉

中小企業は「小さな太陽」

全国の中小企業支援をリードする経済学者

[取材・文] 原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書『年後の仕事は40代で決めなさい』(徳間書店)、『インタビューの教科書』(同友館)など多数。



「読む力」、「問う力」、「つなぐ力」を支援

原：中小企業支援に取り組まれた経緯をお聞かせください。

山口：一番のきっかけはリーマン・ショックです。私はその1年前くらいに「いずれ大変大きな不況が来る」と予測していました。私のことを中小企業論の研究者だと思われている方が多いのですが、実は金融論が専門なんです。当時、アメリカの住宅バブルを背景とした怪しい証券、いわゆるサブプライムローン証券化したものが世界中に出回っていて、多くの金融機関がこれを買って持っている、その証券が価値を失って相当な損失が発生していることを知りました。このまま行くと、いずれ大変な世界的不況が

やってくる。そう考えて、全国の中小企業経営者に警告を発していたんです。ところが、テレビでは「サブプライムなんか気にしないでいい」とコメンテーターが発言している。「そんなこと気にしていたら、経営者として笑われますよ」などと中小企業経営者に偉そうに説教している学者もいました。でも、結果がどうなったかはご存じのとおりですね。大不況の到来です。

たまたま私の講演を聞いた人たちから、「先生の話聞いて、いざという時のために運転資金を借りておいた。おかげで会社を潰さずに済みました」という声を多数聞きました。中小企業といえども経済情勢や経済構造に関する知識をきちんと持っている必要がある。私はつくづく、それを実感しました。メディアが流す情報の多くは断片的なので、全体の構造が理解できていないと誤った判断になるんです。

中小企業経営者に正しい情報を提供して、彼らがビジネス環境の変化を読み解きながら企業経営を実践していく、そういう環境を作っていく必要がある。そう考えて、「中小企業サポートネットワーク」という勉強会組織を立ち上げたわけです。中小企業 (small business) の「Small」と、サポート (support) の「su」、ネットワーク (network) の「n」をつなげて、略称を「スモールサン」(Small Sun) としました。これには中小企業が「小さな太陽」となって輝いてほしいという意味が込められています。リーマン・ショック直後に立ち上げたんですが、たちどころに参加者が1,000人ほどになりました。

原：経済のプロの指導で先を読む経営ができることは、多くの中小企業の救いになったでしょう。